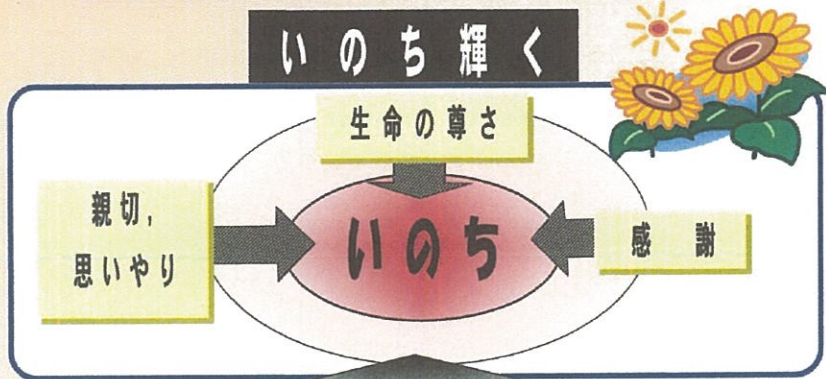


研究の構想図

【学校教育目標】
 知・徳・体の調和のとれた心身ともにたくましい児童の育成
 ～かしこく、やさしく、元気よく～

【研究主題】
 いのち輝き、自他を「つなぐ」道徳教育を目指して
 ～自己を見つめ、共に考える道徳の授業～



【道徳の授業改善】		
仮説1	仮説2	仮説3
体験を生かし、自己を見つめさせる工夫 ①体験活動・各教科等と道徳の授業を関連させた指導計画の充実 ②自己を見つめさせる場の工夫	共に考える道徳の授業展開の工夫 ①主体的に学ぶ学習過程の工夫改善 ②発達段階に応じた対話的な学びの工夫	成長を実感できる道徳の評価の工夫 ①評価の場や評価方法の工夫 ②道徳ノートや「私たちの道徳」の効果的な活用方法
【言語活動の充実】 業間活動の充実・道徳コーナーの設置・道徳通信等		

【児童の実態】

仮説1：体験を生かし、自己を見つめさせる工夫

①体験活動・各教科等と道徳の授業を関連させた指導計画

【別業の活用ポイント】

- 道徳教育全体計画別業を作成後、学年部で話し合い、同じ道徳的価値で関連付けられる体験活動・各教科等と道徳の授業を線をつなぐ。
→関連を意識した指導が可能に！
- 全学級の道徳教育全体計画別業を職員室に貼り、実践を担当者がチェックする。
→常に別業を見ることができる！
→35時間確実に道徳の実践ができる！

道徳教育全体計画別業

②自己を見つめさせる場の工夫

学習指導要領には「道徳的価値の理解を図るには、児童一人一人が自分との関わりで捉えることが重要である。」とある。そこで道徳の授業や、日常生活で自分の経験や考えたことを振り返り、自己を見つめることができるような下記のような工夫をした。



【ポイント】 ～授業～

自分を見つめる場面で、写真を活用している場合が多い。
自分たちの体験等を写真で見ること、振り返りが難しい児童への手立てとなる。



【ポイント】 ～道徳コーナー～

授業で「学んだ教材名」と「学んだ心」などを書き、教室に掲示するようにしている。
学級でいろいろな出来事が起きた際など、繰り返し振り返ることができる。



【ポイント】 ～成長の足跡～

児童が、自分の成長を自覚できるように、体験活動（行事）・各教科等で学んだことなどを児童の言葉と写真で残すようにしている。

走るときは、きつなだけのお家の方がれがらのおうえんまで最後まであきらめずに全力で走ることをできました。

仮説2：共に考える道徳の授業展開の工夫～基本型～

6年「真海のチャレンジ 佐藤真海」(よりよく生きる喜び)

ねらい：困難や苦しみを乗り越えている真海さんの生き方から、人間の強さや気高さを感じ、夢や希望に向かってよりよく生きたいという心情を育てる。

導入	<p>ひとおす</p> <p>道徳的価値につなぐ工夫 ★資料の活用(偉人の紹介等) ★写真の活用 ★アンケートの活用 ★体験活動(資料に関わる体験等)</p>	<p>みふねっこ 学習過程</p> <p>学習活動 (教師の発問・指示・児童の反応)</p>	<p>支 援 (授業改善)</p>
展	<p>問題意識をもたせる発問 ★心に残ったことや、もっと知りたいことはありませんか。 道徳的価値に迫る発問(中心発問) ★なぜ〇〇でしょう。 ★あなたならどうしますか。理由や結果も考えよう。</p> <p>【「対話」による話し合いのポイント】 ・話し手の児童・聞き手の児童には「アイコンタクト」「体の向き」を常に意識させる。 ・発言する際には、友達の意見に対し「つなぎ言葉」を使って、自分の意見を言う。</p> <p>つなぎ言葉の例 ・低中学年 ・〇〇さんと似ていて・〇〇さんと違って ・高学年 ・〇〇さんの意見もいいけど～ ・〇〇さんの言いたかったことは～</p> <p>・ペアやグループトーク、オールトークでは、自分の考えと友達の考えの違いを意識して意見の交流をし、多面的多角的な考えを引き出す。</p> <p>道徳性をより高める発問 ★〇〇には、どんな意味があったのでしょうか。 ★〇〇(道徳的価値)とはどんなことでしょう。</p>	<p>ひとおす</p> <p>1 真海さんについて知る。</p> <p>足を失った真海さんは、なぜこんなに笑顔で輝いているのでしょうか。</p> <p>・真海さんってすごい笑顔です。 ・楽しそう。</p> <p>真海さんの生き方を通して、自分の「生き方」についてみんなで考えていきましょう。</p> <p>ふかめる</p> <p>2 資料を聞き、話し合う。</p> <p>心に残ったことやもっと知りたいことはありませんか。</p> <p>・足を切断したのに、限界まで頑張ったところがすごい。 ・目標をもって自分らしさを出していたのがすごい。</p> <p>どんな心が真海さんの支えになったと思いますか。自分の体験を重ねて考えましょう。</p> <p>・あきらめない心・素直な心・前向きな心・勇氣 ・目標をもつことだと思います。だってほくも金管バンド部では、目標をもっているから頑張れます。</p> <p>みなさんは真海さんの生き方を知って、生きることについてどんなことを考えましたか。</p> <p>生きることは、前向きであきらめないことだと思います。</p>	<p>写真・年表活用</p> <p>年表を使い真海さんの簡単な紹介をしたり、写真を見せたりすることで、短時間で道徳的価値への方向付けができた。</p> <p>体験とつなぐ</p> <p>自分の考えの根拠として、自分自身の体験を述べさせている。「だって...からです。」と、発言に付けさせることで、自分にとっての考えとして考えられるようになった。</p> <p>対話による話し合い</p> <p>ペアトーク・オールトークを取り入れ、自分と違う価値観に出会わせ、自分の考えを深めさせた。</p>
開	<p>自分を見つめさせる発問 ★今までの自分を振り返りましょう。 ①今まで〇〇でした。 ②今日の授業で学んだことは・・・ ③これから〇〇したい。</p>	<p>なりあげる</p> <p>3 自分が支えられた経験を振り返る。</p> <p>どんな自分になりたいですか。今までの自分を振り返って書いてみましょう。</p> <p>チャレンジする自分でありたいです。だってやる前からあきらめてしまう自分がいるからです。</p>	<p>対話による話し合い</p> <p>ペアトーク・オールトークを取り入れ、自分と違う価値観に出会わせ、自分の考えを深めさせた。</p>
終末	<p>道徳的実践意欲を高める工夫 ★GTの活用 ★手紙 ★詩 ★日記 ★わたしたちの道徳</p>	<p>つなぐ</p> <p>道徳的実践意欲を高める工夫</p> <p>この1年間いろいろなことがありましたね。スクラムメンバーのみなさんが輝いていた瞬間を見てください。</p> <p>・今まで、大変なこともあったけど、スクラムメンバーで協力できていたな。 ・これからも目標(夢)をもって頑張りたいな。</p>	<p>対話による話し合い</p> <p>ペアトーク・オールトークを取り入れ、自分と違う価値観に出会わせ、自分の考えを深めさせた。</p>

仮説3：成長を実感できる道徳の評価の工夫

学習指導要領には「児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。」と示されている。本校では、児童の学習状況や道徳性に関わる成長を様々な方法で捉えるようにしている。

①交換授業を生かした授業の評価

道徳の授業で評価をする際、授業をしながら児童一人一人の様子を評価することは、とても難しい。そこで、本校では、自分の学級の児童をじっくり評価できる場を設定しようと、年に2回程度「交換授業」を実施している。

【担任側】

児童のよさを観察できる！記録もしっかりとることができ、精度の高い評価ができる！

【授業者側】

事前に、学年で教材研究をしているから、より質の高い授業ができる！

【交換授業のポイント】

- 1 交換授業の教材を決める。
- 2 教材研究を学年で行う。
- 3 学級の実態が違うため、事前アンケートをとっておくと、実態を知ることができる。（事前アンケートは導入等に活用）
- 4 担任は児童一人一人の様子を見取り、発言や発表、道徳ノートの記述内容などを評価カードに記入し評価する。



担任は評価を！

②道徳ノートを生かした評価 ★児童の成長を評価

3年生で「心と心のあく手」（親切、思いやり）の授業を実践した。登場人物の行動やその行動をとった理由や結果を予想させる授業展開を実施した。

以下は事前に行った「高齢者疑似体験の感想」と「道徳の授業中に書いた道徳ノートの記述」を並べて比較したものである。道徳ノートに思いを残すことで、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていることが分かる。

高齢者疑似体験後の感想

A君の道徳ノート

おじいちゃんとおばあちゃんがきついと、今気付きました。耳があまり聞こえないと分かりました。



「心と心のあく手」の授業での記述

A君の道徳ノート

- ①（行動の予想）おばあちゃんの荷物を持ってあげた。
- ②（理由）おばあちゃんが転んだとき、ぼくが付いていたから助けられるから。ぼくも、前におばあちゃんが歩くとき、きつそうだったので荷物を持ってあげたことがあります。ぼくのおばあちゃんには「ありがとう」と言ってくれたから、ぼくの心がぼかぼかになりました。
- ③（結果の予想）おばあちゃんが喜んでくれた。

A君は、高齢者疑似体験を通して高齢者の大変さを実感し、道徳授業で荷物を持ってあげた自分の行為が価値あるものだ気付き、理由を上記のように記述していた。道徳ノートに思いを残すことで、児童自身、自分の心の成長を実感できた。

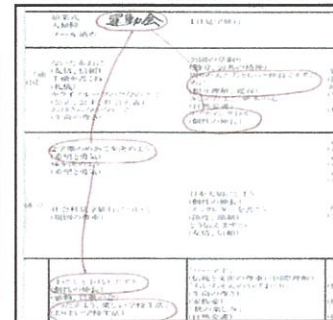
仮説1：体験を生かし、自己を見つめさせる工夫

①体験活動・各教科等と道徳の授業を関連させた指導計画の充実

道徳教育全体計画別業を作成して終わりではなく、年間を通して効果的な活用方法を考え、全職員で取り組んだ。

【別業の活用ポイント】

- 1 道徳教育全体計画別業を作成後、学年部で話し合い、同じ道徳的価値で関連付けられる体験活動・各教科等と道徳の授業を線でつなぐ。→関連を意識した指導が可能に！
- 2 全学級の道徳教育全体計画別業を職員室に貼り、実践を担当がチェックする。→常に別業を見ることができる！→35時間確実に道徳の実践ができる！



道徳教育全体計画別業

②自己を見つめさせる場の工夫

学習指導要領には「道徳的価値の理解を図るには、児童一人一人が自分との関わりで捉えることが重要である。」とある。そこで道徳の授業や、日常生活で自分の経験や考えたことを振り返り、自己を見つめることができるよう下記のような工夫をした。



【ポイント】 ～授業～

自分を見つめる場面で、写真を活用している場合が多い。自分たちの体験等を写真を通して見ること、振り返りが難しい児童への手立てとなる。



「諦めない心」

走るときは、きつかったけどお家の方からのおうえまで最後まであきらめずに走りきることができました。

【ポイント】 ～道徳コーナー～

授業で「学んだ教材名」と「学んだ心」などを書き、教室に掲示するようにしている。学級でいろいろな出来事が起きた際など、繰り返し振り返ることができる。



【ポイント】 ～成長の足跡～

児童が、自分の成長を自覚できるように、体験活動（行事）・各教科等で学んだことなどを児童の言葉と写真で残すようにしている。